



①白糠大正琴サークルは「キャンディーキャンディー」や「ソーラン節」などを演奏 ②藤間流真三代会は「花一凛」「じょんがら女節」を披露 ③白糠フラクラブは「ア・ソング・オブ・オールド・ハワイ」の曲でフラダンスを披露

11月12日

詩吟や演舞 練習の成果披露 総合文化祭芸能発表会

文化協会と教育委員会主催の「総合文化祭芸能発表会」が社会福祉センターで開かれ、詩吟やダンスなど多彩なステージが繰り広げられました。

発表会では、始めに藤間流真三代会が舞踊を披露。その後、白洋大学舞踊部や白糠フラクラブ、白糠吟詠会が日頃の練習の成果を披露しました。続いて、西庶路音頭振興会が「長生き音頭」や「西庶路音頭」を披露し、観客を楽しませました。発表会の最後は、白糠大正琴サークルが大正琴を披露し、集まった約90人の観客から大きな拍手が送られました。

会場を訪れた沖田ハツミさんは「それぞれの踊りによってテンポや曲調が違うので、おもしろかったです。来て良かったです」と笑顔を見せていました。

11月10日

演歌を聞いて生き生き しらぬか歌謡コンサート

生き生きしらぬかふれあい交流事業「しらぬか歌謡コンサート」が社会福祉センターで開かれました。

コンサートには約120人が来場。北島三郎ファミリーの演歌歌手山口ひろみさんと喜多島麻鈴さんが出演しました。

コンサートは3部構成で行われ、初めに山口さんがデビュー曲の「いぶし銀」などを披露しました。2部では喜多島さんが登場し「Swing love」などを披露。3部では再び山口さんがステージに登場し、最新シングル「三井の晩鐘」などを歌いました。最後は山口さんの呼びかけにより喜多島さんもステージに上がり北島三郎さんの「まつり」を二人で熱唱しました。

演歌が大好きという棚橋宏美さんは「生の迫力がすごかったです。目の前で見られて感動しました」と話していました。



①②第1部は青い振袖、第3部は赤い振袖姿でパワフルな歌唱力を披露した山口ひろみさん ③オリジナル曲を含む4曲を披露した喜多島麻鈴さん

11月17日

アイヌ伝統料理を学ぶ アイヌ料理講座

白糠アイヌ文化保存会の会員を講師に「アイヌ料理講座」がウレシパチセで開かれ、参加者6人がアイヌ料理3品の作り方を教わりました。

作ったのはししゃも汁、いなぎびご飯、ギョウジャンニクとホッキのラタシケプ(あえ物)。参加者は「初めて作る料理」「とてもおいしいそう」などと話しながら和気あいあいと料理を楽しんでいました。



ししゃも汁の作り方を教わる参加者(中央)



「一番深い坑道は地下1,100mあった」と話す笠原さん(右)

11月14日

笠原邦夫氏から軍艦島を学ぶ 公民館講座「軍艦島」

町教育委員会主催の公民館講座「軍艦島」が公民館で開かれ、町民10人が参加しました。

軍艦島は明治時代から昭和時代にかけて海底炭鉱によって栄えた、長崎県にある世界文化遺産。講座では、講師の笠原邦夫さんが実際に訪れた軍艦島の成り立ちなどを説明。笠原さんは「軍艦島は白糠よりも50年も古く、とても歴史のある炭鉱です」と話していました。

11月10日

私の地元応援募金 明治安田生命42万3千円寄付

明治安田生命保険相互会社から町に42万3千円の寄付がありました。

この日、役場で贈呈式が行われ、釧路支社春採営業所の樋口主馬営業所長が棚野孝夫町長に目録を手渡しました。寄付は、同社が2019年から行っている「私の地元応援募金」事業によるもの。毎年、集まった募金に同社の拠出を上乗せして自治体等へ寄付しています。



「年々寄付額が増え、地元愛の強さを感じます」と樋口所長(左)

11月18日

ミュージックメイトしらぬかコンサート 青少年音楽祭

青少年音楽祭が社会福祉センターで開かれました。音楽愛好家たちの「ミュージックメイトしらぬか」の企画により昭和50年から開催されています。

今年の音楽祭には、庶路学園音楽部や白糠学園プラスアンサンブル同好会、白糠吹奏楽団など全10組が出演。会場を訪れた約140人を前に華麗な歌や演奏を披露すると、会場から大きな拍手が送られていました。